

情報 ひがし労

JR東労働組合 中央本部

発行人 松下 明

編集者 情宣部

堀口真明 中央本部執行副委員長の投稿が 12月17日付の「上毛新聞」に掲載されました！

ウクライナへ物資支援

堀口 真明 (安中市・59)

ロシア軍によるウクライナへの侵攻から間もなく10カ月。ウクライナ軍は、南部の要衝ヘルソン市を奪還し、解放した。一方、ロシア軍は氷点下



ウクライナ東部
ドネツク州バフムートの
屋外で料理をする市民
©東京新聞より

20〜30度まで冷え込む冬を前に、ウクライナ全土にミサイルやイラン製自爆ドローンを撃ち込み、市民が生活に必要な地域暖房施設や火力発電所など電力施設、ガス生産工場、貯油施設といったインフラや集合住宅を徹底的に破壊している。多くの市民が死傷し、停電、断水、電話やインターネットのライフラインが遮断されている。ウクライナのゼレンスキー大統領は「国内のエネルギー部門の3分の1以上が破壊された」と述べ、市民の生活は困難を極めている。プーチン政権による



非道な作戦により、ウクライナ市民が厳冬の寒空に放り出されていることに憤りを禁じ得ない。そうした情勢を背景にウクライナ大使館と連絡を取った友人から、「ウクライナ市民に『使い捨てカイロ』を送ろう」と呼びかけがあった。1月の船便で送るというので、家にある災害備蓄品のカイロを届けた。寒さと死の恐怖の中で耐え忍ぶ市民の役に立てばと思う。一刻も早くロシア軍の侵攻をやめさせ、避難する人々を元の生活に戻してあげたいと願う。

ロシア軍がウクライナ全土の主要インフラをミサイル攻撃したことにより、各地では停電や断水が発生しています。気温が氷点下になるなか、現地ウクライナの人たちは暖房や水のない生活を強いられています。

そのような中で、電気を使わない「使い捨てカイロ」をウクライナの人々に送る取組みが行われています。ひがし労もこの運動に賛同し2023年1月の船便で「使い捨てカイロ」を送ります。

皆様のご協力をお願いします！